



患者図書室「さんぽ図書館」の取り組み

高田 幸子

I. はじめに

患者図書室「さんぽ図書館」は、2003年度の病院目標の一つ「患者の視点に立った病院環境の整備」にもとづき、患者とその家族へ図書を身近に提供し、一般書籍においては病院での療養生活に潤いやゆとりを与え、同時に安らぎや娯楽の空間であること、また医療書や健康書籍、パンフレット類などによって、健康や医療の知識を広め、治療への参加や自己決定を支援することを目的として、2004年1月19日に当院2階生理検査室前廊下の一角にオープンしました(図1)。



図1 さんぽ図書館全景

当日は、富山の地元新聞をはじめ各紙の富山版にも「富山市民病院・患者向け図書館オープン」「入院生活に潤いを！」と大きく写真入りで掲載され、市民へアピールすることができました。

富山県内では、1989年に市立砺波総合病院が初めて患者図書サービスを開始しており、当院

は2番目の患者図書室です。開設から4年が経過したさんぽ図書館の設立経緯や現状などを紹介し、今後の課題を述べます。

II. 病院紹介

富山市立富山市民病院は、北アルプスを望む立山連峰の麓に位置し、病床数626床、診療科23科、約42万人を医療圏にもつ富山市の基幹病院です。病院の使命は「私たちは医療を通して皆様の健康を守り、豊かな地域づくりに貢献します」をモットーに地域の皆様から最も信頼される病院になることを目指しています。

III. さんぽ図書館の概要

1. 命名

患者図書館の名前は、後述する患者図書委員会で募りました。「院内を散歩しながら本を借りに来る“さんぽ図書館”はどうかしら？」と提案があり、言葉の響きもよく、これに決定しました。

2. 場所と備品

場所は、外来棟2階の生理検査室前廊下の一角で、広さは10㎡です。作りつけの木製書棚2連と可動式書棚2連、可動式書架1連があります。その他移動楕円テーブル、椅子6脚、受付机、脚立、インターネット、CDラジカセなどがあります。

移動できる什器が多いのは、図書館が廊下の一角にあるため普段はシャッターで間仕切りをしているからです(図2)。開館するときは、作りつけの書棚以外はスペースを有効に使って患者さんが手にとりやすいように各書棚の配置を

考えています。また、検査室の前ということで検査を待っている患者さんにも3脚あるソファに座って雑誌などを利用していただいています。



図2 閉館時のさんぼ図書館

その他、少しでも安らぎを感じていただければと思いCDラジカセでクラシックや童謡、ポピュラー、季節によってクリスマスソングなどを流しています。作りつけの書棚は天井までの高さになっているので、高いところの本を希望される患者さんにはボランティアの方が脚立を使って取って差し上げるようにしています。

3. 開設に向けて

開設に向けて司書は、いくつかの患者図書室を見学させていただきました。当時すでに県内で開設していた市立砺波総合病院へは、ボランティア委員会委員長の副看護部長と一緒に見学させていただきました。また他施設の見学をしたり、資料をいただいたりして、特に狭い空間での患者図書室の運営の仕方について勉強しました。このように各病院の取り組みを参考にしながら、当院独自のやり方を委員会で検討しました。

4. 運営スタッフ

当院には看護部を中心として1998年から活動を行っているボランティア委員会がありました。

開設にあたって、ボランティア委員会の助力によって各部署から委員を選出いただき、10人からなる患者図書委員会を組織しました。オープンに備えて各委員は試行錯誤しながら時

間外に図書の消毒をしたり、図書をジャンル別に仕分けして仮の棚に整理したりして協力しながら準備しました。

IV. 運営・蔵書・選書

1. 運営方法

開館時間は祝日を除く月・水・金、14:00～16:00で、利用者は当院の患者さんとそのご家族を対象にしています。1回につき5冊まで1週間貸し出しできます。マンガの本は10冊までにしています。

コピーサービスは無料で行っています。他には、医療情報検索用にインターネット接続のできる利用者端末が1台と、プリンターが1台あります。

開館時は、患者図書委員会の委員1人とボランティアの方2人から3人で一緒に活動しています。委員は、開館時間と中間の時間、閉館時間に顔を出すように努めています。図書の貸し出しは主にボランティアの方をお願いしています。患者さんからの医療図書に関する質問などは、司書や委員に連絡していただくようにしています。ボランティアの方たちも、長い方ではオープンの時から続けてくださっている方もいて、さんぼ図書館にとってなくてはならない存在になっています。各曜日によってボランティアの方が変わるので、雰囲気もそれぞれ変化があつて患者さんに好評です。

2. 蔵書

図書の分類は、別表のように色ラベルで分類しています(表1)。

2008年9月現在、一般書は約1,800冊、医学・医療関連図書は約300冊あります。一般図書は、開設時に同じ市立ということで富山市立図書館より、年に1回市民に払い下げているなかから小説や写真集、旅行の本などの図書を優先的にもらい受けることができました。現在も毎年いただいています。職員や患者さんからも図書の寄贈を募っています。

表1 図書の色分け分類

茶	赤	緑	黄	黒	青
小説	エッセイ	実用・旅行 趣味	マンガ・コミック 児童書	医学書 専門書	医学書マニュアル 闘病記

書棚の容量が限られているため、保管室を用意して、ボランティアの方に随時入れ替えをお願いします。

マンガの本に関しては、職員や患者さん、市民の皆さんのご協力により「ゴルゴ13」「サラリーマン金太郎」「美味しんぼ」などが全巻そろっていて、患者さんから好評です。時には、喫茶店を閉店したのでと、ダンボール箱に詰まった本を何箱も寄贈していただいたこともありました。

3. 選書

病院からは、さんば図書館の維持費として毎年10万円の支給を受けています。プリンターのトナー代金などの消耗品代を除いた分で、月刊誌、週刊誌、医学医療図書、闘病記やリクエストのあった資料を購入しています。

医学・医療図書の購入は、デスクマニュアルシリーズ「患者医療図書サービス」などを参考にしながら、司書が選定しています。闘病記などはインターネットで検索して、あらすじ、解説などを参考にしながら考慮して購入するようにしています。パンフレット類は、製薬会社の営業担当者をお願いしています。

また、患者さんが家庭に帰ってから自身の健康に留意できるよう、食事療法に関する図書を意識して購入するようにしています。

患者さんからリクエストのありました図書は、次年度にできるだけ購入するようにしています。

患者さんからリクエストを受けて購入した一般図書には、詩集（谷川俊太郎・金子みすずなど）、交通事故の訴訟の本、鎌田 實の「がんばらない」、新井 満の「千の風になって」、赤ちゃんの名づけ方の本、「笑いは心と脳の処方せん—

ユーモアから学ぶ健康学」などがあり、これらは維持費の中から購入しました。

患者さんは娯楽の本と一緒に気になる病気の本も読んでみようかという利用の仕方が多いように思います。

月刊、週刊雑誌は毎回配架したときに特集記事の内容をホワイトボードに書いています。今年度の購入図書の一覧も掲示しています（表2）。

表2 購読雑誌

分類	数	種類
一般誌	3	文藝春秋 趣味の園芸 サライ（隔週）
健康医学雑誌	3	がんサポート きょうの健康 栄養と料理

V. 利用実態

1. 利用状況

2007年度の利用状況をみますと貸出者数は1,150人、一日平均8人です。インターネット利用者は一日平均3人です（図3）。

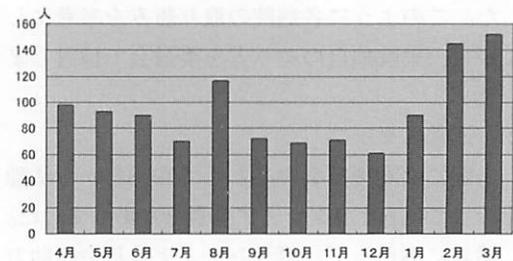


図3 来館者数

医学・医療図書の利用状況は年間約120冊です。医学・医療図書の利用に関しては、リハビリをかねて散歩しながら訪れ、ご自身の病気について立ち読みをしたり、ネットで調べたり、パンフレットを持ち帰ったり、ボランティアの方に相談したりとそれぞれお好みの方法で利用なさっているようです。

患者さんの家族が、患者さんの病状を心配して医学書を借りていかれるケースも多く見受けられます。家族は病気について理解しようとしながらも、患者さん自身とは違った視点から、複雑な思いをボランティアの方に打ち明けていかれることもあるようです。そのようなとき、ボランティアは聞き役になってゆっくりとお話を聞くようにしています。司書もできるだけ顔を出すようにしていますので、一緒にお聞きするようにしています。

図書の盗難、紛失はなく、開館当初からの利用ノートを見ますと100%近い返却率です。患者・家族のみなどで利用しているのだからという思いが伝わってきます。本当に誇れることです。

図書を借りる際によく尋ねられるのが、「本を返すときはどうすればいいのですか」という質問です。受付機のところに返却方法の掲示をしてあるのですが、見落とされる方が多いようです。週に3回の開館で、時間も限られていることもあり、戸惑われるようです。閉館時は返

却ボックスを置いて対応しています。それも返却率の向上につながっているのではないかと思います。

当院で利用頻度の高い図書リストを最後に掲載します。

2・検索とレファレンス

インターネットの利用に関しては医療情報のみに限っています。インターネットのお気に入りにはがん関連サイトや医療関係サイト、患者会などを登録しています。

病院の中にインターネットを利用する場がないので、若い患者さんなどメールのチェックや大学の授業の確認などに来られることもよくありますが、そのような場合は大目にもみることがあります。

Ⅵ. 広報活動など

さんぼ図書館を利用させていただくために、入院患者さん用のパンフレットの中に図書館の利用案内を入れたり、院内の掲示板にポスターを貼ったりしてお知らせしています。

職員への周知も進んでいるようで、病棟の看護師が患者さんをお連れくださることもあります。

2007年8月に利用者数が延べ5,000人を超えたことを受けて、地元の新聞社が「読んで癒やされて」と題した記事を掲載してくださり、市民の皆様にもPRしていただきました(図4)。



図4 北日本新聞 2007年8月23日号

1,000人目の時も5,000人目の時も、当院の事務局長より患者さんに、ボランティアの方が作ってくださった花かごを贈り、とても喜んでいただいたことを覚えています。このように病院の患者さんとそのご家族にとってなくてはならないものになっています。

もう一つ癒しの空間として、同じ頃に市民による作品を掲示する場として設けられた2階廊下のギャラリーは、スポットライトもつき、美術館さながらに病院の中の癒しのスポットになっています。3週間ごとの展示なのですが、半年先まで予約でいっぱいになっている盛況ぶりです。

このようにすでにでき上がっている病院の中で、患者さんに喜んでいただけるスペースを確保することは難しい作業ですが、みんなで力を合わせればできるものだということを実感しました。

VII. 問題点と今後の展望

患者さんとそのご家族、地域住民の方たちの医療・健康に対する意識は、ますます高まって

くることと思います。さんぽ図書館の役割も増してくることと思いますが、それにはボランティアの方の増員をはかり、開館時間の延長、開館日を増やすことなどが検討事項です。

また、地域性や病気の関連からか高齢者が多く、インターネットの情報よりも、わかりやすく書かれた医療書の情報を求めているように思います。今後は患者さんとそのご家族の方の立場に立ち、安心して正確な医療の情報を得て納得して治療を受けていただけるように、わかりやすく書かれた医学書やパンフレットを増やしていきたいと思っています。そして「さんぽ図書館」の存在を職員全体で把握して、診療の場でも看護の場でも、「さんぽ図書館」の図書の話題が出るような図書館になればと思っています。

参考にさせていただいた病院

- 1) 市立砺波総合病院
- 2) 高山赤十字病院
- 3) 京都南病院
- 4) 新潟県立がんセンター 新潟病院

表3 利用頻度の高い図書一覧

No.	出版社	著者名	出版社
1	新・名医が書いた病気の本 胃がん・大腸がん	三浦 健	新星出版
2	子供のぜんそくアトピー解説読本(改訂第4版)	古庄巻史	診断と治療社
3	よくわかる脳卒中の話	竹迫仁則	海鳥社
4	高齢者アセスメントポケットブック	津村智恵子	日総研
5	やさしい骨粗鬆症の自己管理	森井浩世	医薬ジャーナル社
6	やさしい腰痛の自己管理	米延策雄	医薬ジャーナル社
7	やさしい腎臓病の自己管理	今井圓裕	医薬ジャーナル社
8	やさしいてんかんの自己管理	八木和一	医薬ジャーナル社
9	高血圧あなたの処方箋	小林健一	北国新聞社
10	きょうの健康シリーズ 不眠症で悩む人に	井上昌次郎	NHK出版
11	肝臓病の生活ガイド	与芝 真	医歯薬出版
12	正しいステロイド剤の使い方	塩原哲夫	医薬ジャーナル社
13	最新 めまい・耳鳴り・難聴	小川 郁	主婦の友社
14	肝炎の正しい知識	藤沢 洌	南江堂
15	アルコール依存症に関する12章	斎藤 学	有斐閣

16	Q&A更年期障害	池下育子	法研
17	病院の検査なんでも早わかり	安田和人	主婦の友社
18	骨と関節健康カルテ	国分正一	日本臨床整形外科医会
19	乳がん私の決めた生き方	宮田美乃里	リヨン社
20	患者のなぜに答えるがん化学療法Q & A	渡辺亨/飯野京子	医学書院
21	胃を切った人の食事	羽生富士夫	主婦の友社
22	NHKきょうの料理 腎臓病の食事	椎貝達夫	NHK出版
23	NHKきょうの料理 肝臓病の食事	石井裕正	NHK出版
24	新これが透析療法です	太田和夫	南江堂
25	糖尿病に克つ食事と生活	相磯嘉孝	主婦と生活社
26	きょうの健康シリーズ 更年期のからだと心の変化で悩む人に	後山尚久	NHK出版
27	図解・症状からわかるからだの病気	瀬在幸安	法研
28	高血圧・動脈硬化の食事と食べ方	主婦の友社	主婦の友社
29	なにをどれだけ食べたらいいの	香川芳子	女子栄養大学出版部
30	めまい難聴耳なりはここまで治る	神尾友和	主婦と生活社
31	肝臓がんと肝硬変	島村善行	主婦の友社
32	肺がんがわかる本	浅村尚生	法研
33	きょうの健康シリーズ 肩こり50肩で悩む人に	大井淑雄	NHK出版
34	リウマチの生活ガイド	前田真治	医歯薬出版
35	病気の地図帳	山口和克	講談社
36	乳がん110番	南雲良則	日刊工業新聞社
37	名医のわかりやすい食道 胃の病気	森 治樹	同文書院
38	NHKきょうの健康 糖尿病のすべて	後藤由夫	NHK出版
39	温泉療法	大塚吉則	南山堂
40	貧血の食事と食べ方	主婦の友社	主婦の友社
41	うつ病 こころの病を治す	筒井末春	法研
42	君と白血病この一日を貴重な日に	細谷亮太	医学書院
43	肝臓病健康な肝臓をとり戻す	熊田博光	法研
44	目で見る「がん」展	寺田雅昭	読売新聞社
45	自律神経失調症	井出雅弘	PHP文庫
46	胃を切った人の体験記	梅田幸雄	協和企画
47	ウイルス肝炎の正しい知識	飯野四郎	日本メディカルセンター
48	ベッドサイドのユーモア学	柏木哲夫	MCメデिका出版
49	輝く命をみつめて	友久久雄	本願寺出版
50	野の道往診	徳永 進	NHK出版